

マニフェスト・サミット 2017 研修レポート

唐澤 敏

議会本来の仕事とは何か ～通年議会の是非から考える～

○岐阜県可児市(議会議長 川上文浩 氏)

議会が説明責任を果たすための年間サイクルによる議会運営について

- ・可児市議会では、可児市議会基本条例に基づき、市民の信頼に応え、活力あふれる議会活動を継続して実践していくために、議員改選により議会活動が途切れることがないよう、次期議会へ引き継ぐ事項を定めている。また、議長マニフェストにより、4年間の任期における議会運営の方針を毎年定めるようにしている。
- ・引き継ぎ事項の主なものは、議会が合議体としての特性を活かし、積極的に政策形成を行う仕組みの充実を図ることや、議会の広報・公聴機能を更に高め、住民の意見を活かす仕組みを整備すること、および委員会機能の充実に向け、視察・研修・各種団体等の意見交換など、計画的に行うことなどとなっている。
- ・二元代表制のとらえを市長が運転手でアクセル役を務め、議会がブレーキをもつ自動車学校の教官役とイメージしている。
- ・発表者(議長)としては、議会の使命を住民福祉向上のための中長期ビジョンについて執行部とともに、市民に対して責任をもって提示することだと考え、熟議型議会を目指している。
- ・議会運営サイクルとしては、毎年度に議長が示す議長マニフェストにもとづいて、委員会が課題に取り組んでおり、任期終了時には次期議会に向けて提言を残していく。
- ・予算決算審査サイクルとしては、予算審査において重点事業説明シートを活用し、決算審査においては重点事業点検報告書を活用して十分な審査を行っている。審査の過程で議会としての提言を取りまとめ、市長に本会議で通知するとともに対応結果の報告を求めている。
- ・政策サイクルとしては、政策提言を柱として一般質問や様々な住民意見の聴取を通して、計画調査⇒進捗管理⇒課題整理⇒改善・見直しの検討⇒提言⇒計画調査⇒・・・の仕組みを作っている。
- ・若い世代との交流サイクルとしては、高校生議会やママさん議会、地域課題懇談会、更にはオープンエンリッチ報告会などを年間計画のなかで実施している。
- ・以上の4つのサイクルをアニュアルプランとして有機的に組み合わせ、議会として民意を反映した政策タイムラインの確立を図っている。

○滋賀県大津市(議会事務局次長 清水克士 氏)

通年議会制度と議会意思決定条例について

- ・大津市議会では、市民の意見や議会の意見を熟議のなかでまとめあげるには、通年議会が適していると考えており、突発的な事件や緊急の行政課題に、機動的に対応が可能となるとしている。
- ・定例会の閉会中においては、議会の機能は制限されるが、通年議会によって情報発信力が高まり、あわせて議会による政策の立案能力も養成されやすくなる。
- ・絶え間なく執行部を監視できる体制づくりや災害等に対する危機管理体制の整備のた

め、大津市では通年議会が導入された。

- ・大津市では通年議会の導入にあたって、条例に定める定例会の回数を一回とし、議会の会期を1年間とした。また、従来の年4回の定例会にあたる期間は、集中審議期間として本会議を再開することとした。さらに、市長や議員からの要請にもとづいて緊急に開く会議は、特別会議として本会議を再開することとした。
- ・大津市議会では、従来の議事運営を大きく変更せずに、以前から定例会を開いていた2・6・9・11の任意の日に集中審議期間を設けることによって通年議会を可能としている。
- ・議会の政策立案機能向上のための専門的知見活用のための大学の連携を更に推進していくことを議会基本条例で定めており、現時点で3大学と協定を結んで、議案等の審議の充実や政策形成機能の強化及び政策効果の評価等に資するよう努めている。
- ・議会の意思決定の機動性を確保するため、手続きの明確化を図ることを目的に、議会意思決定条例を制定している。主要項目は、議員派遣・専門的知見の活用・公聴会に関することなどである。